

のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21 TEL・FAX 22-6430 平成24年3月号

直球勝負

子どもへの対応の仕方は、直球勝負になることが多いのではないのでしょうか？
「宿題しなさい！いつもいつも言われんとできんがはダメや！」これが直球です。このように直球が来ると、子どもは、宿題しないといけないとわかっているのに、言われたことに腹が立ち、なかなか行動に移せなくなります。片付けもそうです。「片付けなさい！片付けんがなら捨てるよ！」と言われれば、「あぁいいよ、捨てて」と、売り言葉に買い言葉になり、困るのは親、ということになります。手伝いもそうです。言われて「はい、そのとおりです」と素直に聞ける子はまずいません。そこでぐずぐずしていると、また親の剛速球が飛んでくるというわけです。

そこで、直球をやめてカーブかアンダーソフトなど、状況に合わせて変化球が投げられるといい、ということになります。
宿題をなかなかしない子には、「〇〇ちゃん、今日のこれからの予定はどうなっているの？」と変化球を投げます。1日をどのように過ごすかは、子どもの問題です、ですから、子どもの問題は、子どもに自覚して自分で答えを出してもらうようにします。宿題も子どもの問題です。子どもが自分で問題を解決していけるように、仕向けていくのが親の仕事です。

片付けに関しては、まず「片付けなさい」という前に、大人の側がよく考えなければいけないことがあります。もう使わない玩具や道具があり過ぎないか、収納場所をきちんと決めているか、ということです。それで、物が多すぎる場合には、「もう使わないかもしれないと思うものは、このダンボールに入れておいてね。1ヶ月考えて、いらなと思ったら処分しようね」と、子どもの頭に、分別の意識を持たせ、分別をいつも意識できるようにする事が大事です。この習慣は大きくなってからも役に立ちます。

少ない玩具であること、きちんと収納場所が決まっていること、それならすぐに片付けられると思うし、そして片付けが1日に1回だけ、と決まっていれば、片付けはそんなに苦痛ではなくなるのではないのでしょうか？

もうすぐ新学期です。今年度にけじめをつけ、次に踏み出すためには、片付けがどうしても必要です。片付けながら、新しい年度への心構えができてきます。お父さん、お母さん、直球だけでなく、子どもの心を大事にし、さまざまな変化球を投げられるようになりたいものですね。そして親子で、元気に新しい年度に踏み出していきましょう。